

スコアシート		実施設計段階				11044-ST5				
配慮項目	G	W	R	H	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
						評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										3.3
Q1 室内環境										-
1 音環境										-
1.1 騒音										
1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										-
2.1 室温制御										
1 室温										
3 外皮性能										
4 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										-
3.1 屋光利用										
1 屋光率										
2 方位別開口										
3 屋光利用設備										
3.2 グレア対策										
2 屋光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										-
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										

Q2 サービス性能				-	0.43	-	-	3.9
1 機能性				-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	-
1	広さ・収納性			-	-	-	-	-
2	高度情報通信設備対応			-	-	-	-	-
3	バリアフリー計画			-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-
1	広さ感・景観			-	-	-	-	-
2	リフレッシュスペース			-	-	-	-	-
3	内装計画			-	-	-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-	-
1	維持管理に配慮した設計			-	-	-	-	-
2	維持管理用機能の確保			-	-	-	-	-
				-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性				3.4	0.52	-	-	3.4
2.1 耐震・免震				3.8	0.48	-	-	-
1	耐震性		建築基準法の25%増しの基準	4.0	0.80	-	-	-
2	免震・制振性能			3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.3	0.33	-	-	-
1	躯体材料の耐用年数	R	下水道施設標準の耐用年数により躯体は50年で設計している。	4.0	0.23	-	-	-
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R		2.0	0.23	-	-	-
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		3.0	0.09	-	-	-
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R		3.0	0.08	-	-	-
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R	給水管、汚水管、雑排水管は硬質エンビ管、Eは不使用	5.00	0.15	-	-	-
6	主要設備機器の更新必要間隔	R		3.0	0.23	-	-	-
2.4 信頼性				3.0	0.19	-	-	-
1	空調・換気設備			-	-	-	-	-
2	給排水・衛生設備			3.0	0.25	-	-	-
3	電気設備			3.0	0.25	-	-	-
4	機械・配管支持方法			3.0	0.25	-	-	-
5	通信・情報設備			3.0	0.25	-	-	-
3 対応性・更新性				4.4	0.48	-	-	4.4
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31	-	-	-
1	階高のゆとり		4.7m以上	5.0	0.60	-	-	-
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率:0.07	5.0	0.40	-	-	-
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.31	-	-	-
						-	-	-
3.3 設備の更新性				3.5	0.38	-	-	-
1	空調配管の更新性			3.0	0.17	-	-	-
2	給排水管の更新性			2.0	0.17	-	-	-
3	電気配線の更新性			3.0	0.11	-	-	-
4	通信配線の更新性			3.0	0.11	-	-	-
5	設備機器の更新性		主要機器設備の更新時に建物機能を維持出来る。	5.0	0.22	-	-	-
6	バックアップスペース		バックアップ設備の為のスペースが確保されている。	4.0	0.22	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出				G	W	H		2.0
2 まちなみ・景観への配慮				G				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮								3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上								3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W	H	高温排熱の放出設備はない。	4.0

LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.8
1 建物の熱負荷抑制	W		H					
2 自然エネルギー利用				3.0	0.29			3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用	W		H	3.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用	W		H	3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化	W		H	5.0	0.43			5.0
3a 集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				5.0				
3b 集合住宅の評価								
4 効率的運用				3.0	0.29			3.0
4.1 モニタリング	W		H	3.0	0.50			
4.2 運用管理体制	W		H	3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護	W		R	3.0	0.15			3.0
1.1 節水				3.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1.2.1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			
1.2.2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.63			3.3
2.1 材料使用量の削減	W		R	2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W		R	3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W		R	3.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	W		R	5.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W		R	3.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W		R	3.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.22			3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				4.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			
3.2.1 消火剤	W			-	-			
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	W			3.0	1.00			
3.2.3 冷媒	W			-	-			
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮	W			3.8	0.33			3.8
2 地域環境への配慮				3.5	0.33			3.5
2.1 大気汚染防止				5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善	G	W	H	3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.3	0.25			
2.3.1 雨水排水負荷低減			R	-	-			
2.3.2 汚水処理負荷抑制			R	4.0	0.33			
2.3.3 交通負荷抑制			R	3.0	0.33			
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制			R	3.0	0.33			
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33			3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
3.1.1 騒音				3.0	0.50			
3.1.2 振動				-	-			
3.1.3 悪臭				3.0	0.50			
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制				3.0	0.40			
3.2.1 風害の抑制				3.0	0.70			
3.2.2 砂塵の抑制					-			
3.2.3 日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				3.7	0.20			
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				4.0	0.70			
3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			